

（株）西原商会在がエコ箸を寄贈



5月10日、食品卸売企業の（株）西原商会（鹿児島市）が市にエコ箸1万膳を寄贈しました。この箸は、同社社員の制服をリサイクルして製作されたもので、当日は西原一将社長が、環境問題に取り組んでいる（株）リースプロジェクト代表で、俳優の伊勢谷友介さんらが出席。その後、出席者は鹿屋女子高校を訪問して、エコ箸を使い、生徒と一緒に昼食をとりました。エコ箸は市内小中学校にも配布される予定です。

新たに「かのやブランド」に認証



かのやばら園のかるかん(右) ひとつぶの薔薇(左) バラ紅茶(右) バラ煎茶(左)

5月15日、かのやばら園で「第3回かのやブランド認証書授与式」が行われました。これは、地域資源であるバラを活用した優れた産品をかのやブランドとして認証するもので、今回新たに4商品が認証されました。認証された商品と事業者は次のとおり。○バラ紅茶、バラ煎茶（有限会社お茶の緑峰園）○かのやばら園のかるかん、ひとつぶの薔薇（杵屋モンドル）

日頃の感謝の気持ちをこめて



5月11日、信愛こども園の園児が市役所を訪問し、歌と花束をプレゼントしました。これは、子どもたちが様々な施設に花を届けて、日頃の感謝の気持ちを伝えるキリスト教の行事「花の日」にあわせて毎年行われているもの。園児たちは、可愛らしい歌を披露した後、「いつもありがと」の言葉を添えて色とりどりの花束を職員に手渡していました。

カンパチを使った新商品販売へ



5月25日、リナシティかのやで、かのやカンパチを使った新商品「カンパチアヒージョ」の発表会が行われました。これは、単身世帯・若年層のカンパチ消費を上げることを目的に鹿屋市漁協が販売するもの。またこの日は、昨年度のShow・1グルメグランプリで優勝した「カンパチdeリゾート」の販売協力飲食店によるオリジナルソルトの発表も行われました。

ロボットを授業に活用



5月11日、鹿屋女子高校で人型会話ロボット「Pepper」を使用した授業の開始セレモニーが行われました。この授業は、市内の高校生を対象に、ロボット制御アプリ開発を通じて、将来に向けた人材育成や地域内IT技術の向上のために行うもの。ロボット産業の急成長が予測される中、即戦力として活躍できる人材の輩出が期待されます。

思いやりの心を育む



5月24日、「人権の花運動」開校式が花岡小学校で行われました。人権の花運動とは、人権の花「ひまわり」を児童が協力し合って栽培することで、優しい心や思いやりの心を育むことを目的に行われているもの。開校式では、「ひまわり」の種などの贈呈が行われたあと、児童代表の西園海さんが「花いっぱい、笑顔いっぱいの花岡小学校にしたい」と抱負を述べました。



5月18日、市と鹿児島興業信用組合の間で「健康診査事業の推進に関する覚書締結式」が行われました。これは、国民健康保険の特定健診と長寿健診の受診率向上を目的に締結されたもので、同組合が健診を受診した人を対象に定期預金の金利優遇を行うというもの。健診率アップが期待されるこの取り組みは、8月から募集開始する予定です。



「豚ばら丼」を食べて学ぶ 5月19日・20日、市南部給食センター受配校18校の給食に「豚ばら丼」が登場し、うち7校で養豚農家と子どもたちの交流が行われました。これは、市の特産品である豚について興味をもってもらおうと、毎月10日の「かのや食育の日」に合わせて企画したもの。養豚農家の講話やクイズなども行われ、子どもたちは「豚ばら丼」を美味しく味わいながら、楽しく豚について学んでいました。



バケツで稲の収穫を目指す 5月7日、リナシティかのやイベント広場で肝属川の水を利用した「バケツ稲づくり」が行われました。これは、市街地の子どもたちに稲作体験をしてもらおうと行われたもので、当日は、参加した児童クラブの子どもたち19人がバケツ18個にもち米の苗を植え付けました。今後、稲の成長を観察して9月に稲刈りを行い、12月の餅つき大会で収穫の喜びを味わう予定です。

ハンセン病問題について学ぶ



5月14・15日、市内で「ハンセン病市民学会第12回総会・交流会」が開催されました。14日は市文化会館で「らい予防法廃止20年・ハンセン病国賠訴訟勝訴15年を迎えて」をテーマにシンポジウムが行われ、15日には星塚敬愛園で分科会や園内散策等が行われました。参加者はハンセン病問題のこれまでの経緯や課題等について熱心に耳を傾けていました。

古代・中世の大隅の謎に迫る



5月15日、リナシティかのやで、「甞る大隅国の実像」と題したシンポジウムが開催されました。当日は、市内外で活躍する考古学・歴史学の専門家が一堂に会し、古代・中世の大隅半島の歴史や文化についての研究成果の報告、未だ解明されていない多くの謎について意見を交換。会場には市内外から多くの歴史ファンが詰め掛け、専門家の話を興味深く聞いていました。